

令和5年度 大阪府立交野支援学校四條畷校 第3回学校運営協議会 報告

1. 日時 場所	令和6年2月28日(水) 午前10時00分から12時00分 交野支援学校四條畷校軽作業室	
2. 出席	【学校協議会委員】	
	高塚 良則	元大阪府立支援学校長
	加藤 美朗	関西福祉科学大学教授 (欠席)
	北口 信二	北河内東障害者就業・生活支援センター長
	杉本 匡子	(社) るうてるホーム軽費事業部長
	坪井 安嗣	四條畷市砂自治会 (欠席)
	坂田 雅子	大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長
	【事務局】	
	篠川 一樹	准校長
	溝部 晃輔	教頭
	目良 孝	課長補佐
	筒井 大輔	教諭・中学部主事 (欠席)
	村上 智則	首席・高等部主事 (欠席)
	竹田 良信	首席
傍聴者1人		
3. 次第	(1) 准校長あいさつ (2) 学校教育自己診断アンケートについて (3) 「令和5年度学校経営計画および学校評価」自己評価(案)について (4) 「令和6年度学校経営計画および学校評価」(案)について (5) 意見交換 (6) 准校長あいさつ	
4. 報告	<p style="text-align: center;"><b>学校教育自己診断アンケートについて</b></p> <p>●実施時期・実施方法について、実施時期は定年通り(11月末配付 締め切りは約3週間後)。                  生徒用は例年と変更なく紙媒体実施で保護者用・教員用を、フォーム作成ツールを利用して行なった。特に保護者実施分で、ログインできない原因不明不具合が発生。アンケートを停止し、あらためて紙媒体で実施。教職員実施分は、仕様上、回答者のアドレスが不明なため、回収率(提出)が大幅に低下。</p> <p>【生徒用】                  「わからない」、「未記入」を除くと、肯定的回答が8割を超える。今後はすべての質問項目において、生徒にとって日常の学習活動とのつながりがわかりやすくなるような工夫が必要である。</p> <p>【保護者用】                  「情報機器の活用」で大幅に評価が上がった。今後は、生徒用アカウントの活用も含め、さらに情報機器の活用の推進を検討・実施し、「わからない」という回答をへらしていきたい。各学部学年とも1学期に1回の参観機会を設けているが、例年より多くの参観をという声がある。学校設定以外の日程でも希望すれば参観可能といった情報を周知する必要がある。HPや各行事を通して、随時、情報発信を行い、教育方針への理解を進めていく。                  ⇒「学校の施設設備面」では、今年度もトイレの自動水洗化や洋式化が進み、体育館の空調設備も整った。引き続き、より生徒が使いやすいものになるよう、改修を進めていく。</p> <p>【教員用】                  評価が上がった項目については、学校としての取り組みが数値として出てきている部分ではある。「他の授業を参考にしている」では、学部・学年・経験年数に関わらず、相互に授業を参観できる環境設定等が必要。健全な同僚性を大切に、お互いを尊重しあい、意見を出し合えるよう、アサーティブコミュニケーションの醸成が必要となる。</p>	

## 「令和 5 年度学校経営計画及び学校評価」自己評価(案)について

### ◇達成及び未達成を抜粋

#### 1 希望する進路を実現できる力の育成

・大阪府の中学部段階での企業職場体験実習の施策を活用し、職場体験実習の参加の幅が広がっている。

#### 2 安全・安心のための校内体制の整備

・SNS 指導プログラム案の作成には至らなかったが、各学年の実情に応じて、自主通学生会議やホームルームの時間での指導を学期に一回実施。次年度は学部での指導内容一覧を作成する。

#### 3 教員の専門性の向上と指導力の向上

・授業力向上研修を実施。研究授業を題材に有意義な研修ができた。

#### 4 開かれた学校づくりセンター的機能の発揮

・自己診断アンケートはフォーム作成ツールに不備が生じた為、例年通りの紙媒体で実施。次年度の活用について検討を進める。

#### 5 校務の効率化による働き方改革の推進

・効率化アイデアについて、次年度に向けて具体案から実現可能なものを実施する。

・次年度は業務の精選、行事の見直し、ICT 等の情報機器の利活用を進め、仕事の量的負担の軽減に努める。

## 「令和 6 年度学校経営計画および学校評価」(案)について

### 「中期的目標」の変更点

#### 1.主体的な選択として、希望する進路を実現できる力を育む。

・来年度、高1生徒、中1生徒を対象に実施し、中学部への清掃技術の伝達を授業や学校全体の取り組みの中で進めていく。

#### 2.生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図り、「自ら考えて行動する力」や「コミュニケーション力」「変化に対応できる力」を伸ばす、教育の専門性と指導力の向上に取り組む。

・実践教育のアーカイブ化を目標に追加。

#### 5.校務の効率化を図り、働き方改革を推進する。

・スピード感を持って、課題を解決するために少ない人数で一定の方向性を出す企画会議を来年度に設定。会議の時間短縮などを狙った働き方改革の推進を含む。

### 【委員からの意見

○学校教育自己診断における HP の利活用について、保護者の利用促進や取組を見てもらうことは、福祉の事業所においても同様の課題。情報過多の時代であり、見る側に手間をかけさせない形を検討していけたらよい。

○教員が一人ひとりやりがいをもって働けるように働き方改革が必要だが、教員がやりがいをもって時間をかけて準備が必要なのにできるだけ早く帰るように、と相反することがおきてしまうので難しい課題。

○今年度は PTA の全体学級員会の様子やアンケートなどを学級員よりクラス LINE で案内していただいた。アンケートの回答率を期待したがフォーム作成ツールの不具合や LINE での案内ではなかなかみなさんには届かず、回収率も上がらず難しさを感じた。ホームページは、今年度分業でおこなった。スピード感を昨年より少し上げて実施した。

○学校の教育方針や課題徹底について、職員会議で経営計画の確認を進めたり、部や分掌の会議の中で話題に出したりが必要。また、教職員への伝達方法、周知について再検討し、伝わっているかどうかという点においても、都度確認していく体制づくりが必要。保護者においても同様に、周知する機会と教職員それぞれが理解して保護者に伝える体制作りを行ってほしい。

○生徒の生産性や主体的に取り組める活動において、市で開催している事業所を中心とした、サークル、住民団体のフェスタがある。その舞台で、学校も参加し、良い経験を積んでもらいたい。あわせて、さらに地域に根差した学校となるべく、地域に出たときには、生徒がより自発的に挨拶ができる指導をお願いしたい。

○部や学年の取組や活動をそれぞれの教員が知ることができる、情報交換や周知の方法を検討いただきたい。合わせて、教職員の授業力向上にも資する部分や、各学年等の取組の把握において、従前からの課題である授業見学の体制の見直しを進め、教職員が相互に高めあう体制づくりに取り組んでもらいたい。